

国語の長文読解力が読書量に比例しない本当の理由

～ 「ウチの子は本を読まないから…。」という前に読んでください。～

<http://www.last1nen.com/>

このレポートは「中学受験ラスト1年.com」で公開されています。

中学受験合格レポート:No.004

発行: 有限会社スタディリフォーム

国語の読解力をつける最も確実な方法…

多くの受験生がその対策で悩むという国語の長文読解。私たちのもとにはこのようなご相談が頻繁に舞い込んできます。「ウチの子は昔から本を全く読まなくて…長文読解のためにはやっぱり読書が大切なのではないでしょうか？」今回はこのご質問にお答えするカタチで進めていきましょう。

たしかにこれまで多くの塾やノウハウ本などで国語の読解力をつけるためには読書が大事だということが語られてきました。それは「読み解く」力が問われるという観点からきたもので、決して間違いではありません。しかし、ここに大きな落とし穴があることをどうしても見落としてしまうのです。

国語の読解力をつける最も確実な方法、それは「文章を書く」ことです。理由は簡単です。文章の正しい構造が理解できていれば、逆に読むときに構造を簡単に把握できるからです。もちろん、たくさんの本や文章を読むことで構造をつかめるお子さまもいますが、書くほうが圧倒的に簡単にマスターできます。ここで忘れてはいけないのが「**文章の“正しい”構造**」を意識して書くことです。実はこれは作文では足りません。この正しい文章構造を最も効率よく学ぶことができるのは、小論文なのです。

小論文には書き方の王道があります。もちろん指導される先生によって違う言い方をされるかもしれませんが基本的には同じです。この王道を「型」と呼びます。つまり「型」＝「ルール」ですね。ここではその全貌をご紹介することはできませんが、せっかくなのでエッセンスの部分をお話します。

- 小論文はかならず 4 段落構成にする。
- 大原則として是か否か、どちらかの主張を結論とする。

1. **問題提起** 「今年の夏休みは旅行に行くべきか？」
2. **反対意見** 「たしかに、家と塾の往復では勉強の能率が上がらない可能性がある。」
3. **主張の根拠** 「しかし、この夏が志望校合格の鍵を握ることは間違いない。」
4. **結論** 「したがって、今年の夏は旅行に行くべきではない。」

いかがですか？たった 4 行でも論理的な文章を書くことができます。繰り返しになりますが、この反復をしているうちに自然と文章の構造が読み取りやすくなるはずですよ。

もし読解力に不安があるなら、むやみに読書をするまえにこの「4 行論文」で頭の体操から始めてみましょう。だんだんとハードルを上げていけば、きっと苦手は克服されることでしょう。

このレポートに関するご意見・ご感想や、お子さまの学習相談は、

フリーコール:0120-600-242

(毎日朝 7 時から 24 時まで受付)

24 時間受付ファックス:042-501-2905